



## イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 498 回 忘れられていく日本文化の再現を！

2012.11.11

余談ではあるが、先日競馬の祭典、天皇賞(秋)が行われ、エイシンフラッシュという馬が勝った。そのレースは天皇陛下直々の観戦であった。

勝利ジョッキーのイタリア人、ミルコ・デムーロは、レース後、コース上において、下馬し、膝をつき天皇陛下に対し最敬礼を行った。騎士道に基づく、国家元首への礼である。

しかし、TVでのアナウンサーは残念ながらその意味が分からず、また JRA の職員もわからずに対応してしまったという場面があった。

国により作法が違うため仕方がないと言えば仕方がないのかもしれないが、何とも残念な話である。

イタリアに根付く騎士道の文化を日本人で理解できるものが少なかったのだ。

そこで思ったのだ、日本人は外国の文化はもとより自国の文化を理解しているであろうか。

現代の日本には、忘れられてしまっている日本特有の文化がたくさんある。

そして、それは崇高なまでに美しく、また誇らしいものと筆者は考えている。

その忘れられていく日本文化を身近で体験できる空間こそ、日本の旅館だと考えている。

そのいくつかを取り上げていきたい。

代表的なものの一つとして客室の作り、特に床の間がある。

床の間は本来、掛け軸や生け花などを飾るための場所であり、人が乗ったり座ったりする場所ではない。もともとは茶室の設計に見られる造りではあったが、江戸時代から明治期に入るところには庶民の部屋作りにも一般化した。

しかし、現在の家の設計において西洋の建築が主流となり、また、掛け軸をかけるという習慣がなくなったせいもあるか、めったに見なくなった。

実はこの床の間、部屋の着座位置に大きく関係する。当たり前のことにはなるが、部屋に入った際にもっと上座はと考えた場合、入口との関係もあるが、床の間のある方が上座になる。

旅館で部屋に通された場合、上座は床の間のある方であり、逆に下座は床の間の逆になるのだ。そのため、接客係がお茶をいれ提供する場合も床の間の上座から提供するのが本来なのだ。しかし、昨今では、テレビが一番見やすいところや、レディーファーストなど様々な解釈もあり上座の位置がはっきりしないケースがある。

しかし、繰り返しになるが、日本文化は床の間が上座なのである。

このように、日本の旅館には他にもさまざまな文化が根付いている。

忘れられていく日本文化を再発見するために、そして、日本人の本来のために、旅館における日本文化を守っていくことが大切と考え、スポットを当てていきたい。

(今回は、飯島一敏氏の投稿コラムです。原文のまま掲載させていただきました。)